

東 奥 日 報
2022年(令和4年)2月1日(火曜日) (14)

更上閣、市庁前… 活性化策提案

八 戸 八戸工業大学は1月21日、八戸市中心街の課題について学生が解決策を検討する「中心市街地のまちづくりに関する課題解決事業」最終報告会を同大学で開いた。6グループがまつりんぐ広場や更上閣にぎわい広場、市庁前広場など、具体的なエリアの活性化策を提案した。同事業は2016年度に同大学と

八工大生が報告会

まちづくり八戸、八戸市が締結した覚書に基づき、土木建築工学科3年生が授業の一環として取り組んでいる。最終報告会はこれまで中心部の八戸ポータルミュージアムはっちで開き市民も参加していたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い大学構内に変更した。

「ウィズコロナのまちづくりについて」をテーマに発表したグループは、感染防止対策として飲食店の路上利用を検討。「八戸市中心街は歩道が狭く、路上利用を認める国の特例措置の適用が難しい場所が多い」と指摘し、「鷹匠小路やロー丁れんさ街など居酒屋が多い場所では週末夜に飲食スペースを設置する案がある」などと提案した。

まちづくり八戸の妻神敬悦・企画本部長は講評で「どのグループもプレゼンテーションは整理され分かりやすかった。路上利用は最も人通りが多い三日町でできないか案を出してほしい」などと述べた。(三好陽介)



中心市街地に関する研究成果を発表する学生

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」